

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年5月11日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676600218
法人名	有限会社 やわら
事業所名	グループホーム やわら
所在地	〒899-8605 鹿児島県曾於市末吉町二之方5232番地8 (電話) 0986-76-3727
自己評価作成日	平成25年2月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年3月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

幹線道路から少し奥まった、近くには田んぼや畑のある静かで落ち着いた場所に、その自然にまるで溶け込むかようにGhやわらは建っています。緑の木々を抜けて吹く風は心を落ち着かせ、四季折々の草花は気持ちを優しくしてくれます。

入居者の皆さんは、このような素晴らしい環境の中で必要とする援助を受けながら、穏やかで安心感のある生活を送っておられます。

また、主治医や訪問看護事業所など医療機関との連携を密に図り健康管理に努めるとともに、住み慣れた場所で最期を迎えたいとのご希望があれば看取りも行なっております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな田園地帯に平成17年に設立されたホームである。平屋造りのホームは明るく解放的で、入居者、家族も和める雰囲気となっている。和やかにお茶を飲んだり、自家菜園の野菜を下処理できる社長手作りのあずまやが印象的である。家庭的な雰囲気がただよい、利用者や職員の笑い声が常に聞こえる。ホーム内の手すり等社長の手作りで工夫がみられ、その実行力のある社長とともに、職員も入居者の意向の把握に努めながら毎日の入浴やお世話をきめ細かく行っている。日頃から職員は、家族や入居者からの要望、意見、相談に快く応じるように心がけており、家族、入居者との信頼関係を構築している。終末期の看取りを行うほど職員の質も高く、家族の安心感に繋がっている。

## ○環境整備

本人にとって気持ち良い空間をつくるため、定期的な清掃を細かく行い、不潔になりやすいトイレ等には特に注意をはらい、より良い環境を整える努力をしている。

## ○残存能力の維持向上

本人の出来ることはしてもらうことを基本に考え、時間をかけ出来ることに応じたお手伝いをしてもらい入居者のやりがいにつなげ、リハビリなどにうまく結びつけている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域に開かれた施設であるべきことを明文化するとともに施設の見えやすい場所に掲げ、職員への意識付けを行っている。	理念には「地域の皆様と気軽に交流できる」などの言葉を含み、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。理念を掲示するとともに、新人研修やミーティングでその意義について具体的に話し合い理解を深めるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の散歩は、地域住民との貴重な交流の機会と認識し積極的に取り入れている。また、不測の事態で地域住民にご迷惑がかからないよう必ず職員が同行している。	町内会の清掃活動や催しごとに協力し、散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけなどにより関係づくりに力を入れている。また、学校等との交流会やボランティアの受け入れを行い、日常的に交流が行われている。緊急時には地域の福祉防災協力員からも応援してもらえる体制を整えている。	
3	0	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	施設見学や入居相談、運営推進会議などに於いて、地域住民からの相談や質問に対し、認知症専門施設として認知症の理解や援助の方法を懇切丁寧に説明するよう心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者家族の代表、民生委員、小组長、行政代表などの幅広い分野から委員を選任し、情報交換を行ないサービスの向上に努めている。	行政職員、地域代表、家族代表などが参加し2カ月に1回開催されている。利用者や家族からの要望を行政に伝えたり、グループホームの特徴を理解していただいたり、今後のホームの在り方をともに考える場となっている。外部評価の結果も話し合い、前向きに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営基準上の疑問点はもちろんのこと、入居者やそのご家族への援助についても市担当者に相談するなどしている。また市からの依頼にも積極的に協力するよう心がけている。	電話だけでなく、市の担当課や包括支援センターに出向き諸手続をする際に、窓口で相談をしながら、関係づくりに努めている。現場や利用者の課題解決に向け情報提供と意見交換を行い共有を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全ての職員が身体拘束と排除の必要性について理解を深めることができるよう、月例の施設内研修で身体拘束をテーマにした研修を年2回計画・実施し、実践に活かすよう努めている。	年に2回の研修を行うとともにマニュアルも整備して、やむを得ない場合を除き玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を職員の努力で実現している。職員は常に利用者の状態を把握し、本人の要望や希望に応じて、一緒に外出するなど工夫している。	
7	0	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が高齢者虐待と排除の必要性について理解を深めることができるよう、月例の施設内研修で高齢者虐待をテーマにした研修を年2回計画・実施し、実践に活かすよう努めている。		
8	0	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見人制度を活用している入居者も居られるため、制度の概要や外部との連携方法などについてカンファレンス等で話し合った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	0	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時の説明は、必ず書面を用意し、はっきりと分かりやすい言葉で懇切丁寧に行なうよう心がけている。特に入居料は料金表をもとに細かく説明し、月額などを提示し理解を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事務所前の目に付きやすいところにご意見箱を設置し、書面で意見などを受け付けるとともに、面会時には直接面談している。また運営推進会議に家族代表として輪番制で参加して頂き、意見を述べる機会を設け運営に活かしている。	重要事項説明書に相談窓口を記載するとともに、家族会も定期的に開くなど家族が意見や要望を表しやすいような工夫と配慮が感じられる。職員が要望・相談などを把握した時には苦情報告書や経過記録で他の職員と共有し、必要な場合は職員会議で話し合い解決を図っている。また運営推進会議に輪番で出席してもらい意見を交換している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月例の職員会議に於いて、管理者等と職員との意見交換を行ない運営に反映できるよう努めている。	朝礼、勉強会、ミーティング時に備品の購入や勤務体制などの話し合いをもったり、日頃より気軽に声をかけやすい雰囲気づくりに心がけている。また悩みがありそうな職員には個別面談を行い問題解決を図っている。	
12	0	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、職員個々の能力や業務への取り組み状況などの把握に努めるとともに、職員が常に向上心を持って働けるよう定期昇給や各種手当の支給を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	0	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、職員個々の能力の把握に努めるとともに、年間研修計画を策定させて計画的に介護の知識や技術などの能力向上が図られるよう努めている。</p>		
14	0	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者は、包括支援センターを中心とした地域ネットワークの重要性を理解し、研修会へ職員を積極的に参加させている。また地域のサービスの質の向上が図られるよう、事業所間の交流に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15	0	○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能な限り情報を収集し必要な援助を職員が共有・連携しながら提供することで、安心感のある生活の実現に努めている。また入居当初は、特に声かけや傾聴を密にし、早期の馴染みの関係構築に努めている。		
16	0	○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を含め面談時は、常に懇切丁寧な説明と傾聴を心がけている。困りごとや不安なこと、要望は援助計画に盛り込むことなど説明して、安心感のある施設利用ができるよう努めている。		
17	0	○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との面談の他、利用していたサービス事業所など、可能な限り多くの情報を得て、それらを基に本人や家族の現状に合った援助の提供に努めている。		
18	0	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、できない部分を援助しつつ、調理の下ごしらえや洗濯物たたみなど個々の能力に応じた仕事を入居者に依頼し、お互いに尊重し合いながら生活できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	0	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居により家族の絆が途切れることが無いよう、援助計画で家族との面会や外出・外泊をインフォーマルなサービスとして必ず位置づけ、担当者会議で説明し了解を得るようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもとより、友人や地域の馴染みの人たちとの馴染みの関係が入居により途切れることが無いよう、椅子の準備やお茶の提供など面会しやすい環境作りに努めている。	フェースシートや面会記録を活用し、利用者を支えてくれていた人間関係を把握するとともに、関係を継続できるような面会、電話、手紙の支援や、馴染みの店への買い物などの支援を行っている。	
21	0	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格と入居者同志の人間関係の把握に努めるとともに、座席の位置など入居者同志の人間関係に十分に配慮しながら行なっている。		
22	0	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退居となった入居者の見舞いに行ったり、家族からの相談に乗ったりして支援の継続に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族との面談での聞き取りの他、日常生活の暮らしぶりからその人の望む暮らしの把握に努めている。	利用開始前に本人や家族、関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に反映させている。入居後は日々のかかわりの中で本人の希望や意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有を図っている。	
24	0	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との面談での聞き取りの他、介護サービスを利用していた場合は、本人等の同意を得て担当ケアマネやサービス事業所から情報を得るなどしている。		
25	0	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に職員が目配りや気配りを行ない、心身状態や身体機能の把握に努め、ケアカンファレンスで現状について集約するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント時は、本人や家族の他、介護職員や医療関係者からも情報を得てケアプランに反映させている。また、作成されたケアプランはサービス担当者会議の中で必要に応じ修正を行っている。	計画作成担当者を中心とした担当者会議を開き、話し合いながら計画を作成している。また、ミーティングで計画作成担当者と職員が話し合い、介護計画を作成することで、職員はそれぞれの利用者の介護計画の概要が記載された実施記録表を活用して日常の介護を行っている。また、主治医などの外部関係者との話し合いも行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	0	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェックの他、食事摂取量や排泄量・回数、服薬等のケア実施状況はケア実施表に、気付いたことや特変などはケース記録に記録し、職員が入居者個々の状態を把握できるようにするとともに、介護計画の見直しの資料として活用している。		
28	0	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩や買い物同行などによる気分転換、日常生活自立のための工夫や福祉用具の購入、体調不良時の医療との連携など、入居者の心身の状態に合った援助を提供するように心がけている。		
29	0	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、精米、薬取りなどの活動を通じて地域社会との関わりを持ち続けることで、入居した後も楽しみや生き甲斐のある生活がおくれるような援助を心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、必要な情報提供を行い本人や家族が決定している。相談や報告などで主治医や訪問看護事業所など医療との連携を図り、家族に相談の上送迎や付き添いの援助を提供している。	かかりつけ医は入居前からかかっている医療機関に本人や家族の意向を大切に決めていく。往診時も適切な治療がうけられるように、診療情報提供書やケア実施表等で情報提供に努め、良い関係がつけられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	0	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所への報告・相談の流れを管理者に一元化し、受診や看護が適切に受けられ、その後の指示や命令も適切に出せるように連絡体制を整備している。		
32	0	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報提供を行うとともに、着替えや日用品など入院生活に必要な品物の準備などの援助を行っている。また入院中は面会により回復状況などの情報収集を行うとともに、MSWと再入居の調整などを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期（看取り）について入居時に施設の方針を必ず説明するとともに、面会時やサービス担当者会議などで家族の現時点での考えを聞いている。主治医から家族への終末期の宣告時は必ず同席させて頂き、意思確認しその後の援助に活かしている。	重度化や看取りに対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医と相談し、内容について職員の共有も図っている。今年度看取りの実績があり、病院と24時間体制で連携がとられ、家族の安心感につながっている。	
34	0	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を整備するとともに、マニュアルを職員が見やすい所に置き、急変や事故発生に備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を実施するとともに、消防署や行政から通知があった場合は随時、点検を行うなど、防火管理者が中心となり災害対策を行っている。</p>	<p>避難訓練や消火訓練を行うとともに、マニュアルを作成し研修にも取り組んでいる。近隣の住民が福祉防災協力者を組織し協力して災害対策を行う体制を整えている。夜間体制の訓練は今後行う予定である。但し、非常災害時に必要な備品の管理確認できなかった。</p>	<p>事業所として、今後は非常時に必要な飲料水、食料品等を精査し管理を行う意向である。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇をテーマにした施設内研修を通じて、入居者の人格の尊重やプライバシー確保の重要性を学ぶ機会を提供している。またマニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしてある。	玄関に方針を掲示し、定期的に研修を行っている。利用者へ言葉かけは特に注意するように努めて、自己決定しやすいよう配慮している。また、記録等は事務室の棚に布をかぶせ保管し、外来者の目につかないように工夫している。	
37	0	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴などの身体機能に配慮しながら、ハッキリと大きな声で分かりやすい言葉による説明で、可能な限り入居者が自己決定できるよう心がけている。		
38	0	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば朝食をその日の気分に合わせて、他入居者より遅く提供するなどの便宜を図っている。		
39	0	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洗濯援助に必ず職員が加わることで入居者の衣類の状態を把握し、必要に応じ補修や購入のための援助を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の喫食状況の観察や摂取量の確認により嗜好の傾向を把握しメニューに活かしている。また調理の下ごしらえや配膳など、個々の能力に応じた家事活動への参加を促している。	料理本を参考にしたり、食事をしながら食事の希望を聞いたり、食欲を引き出す工夫をしている。家庭菜園の旬の食材の活用や配膳、下膳、下ごしらえを一緒に行うことで食への興味を持ってもらうように努めている。食事は職員も一緒に会話を楽しみながらとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	0	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔機能に応じた形態やトロミの使用、身体機能に応じた自助具の活用など、入居者個々の身体機能に応じた食事や水分を提供するとともに摂取量の把握に努めている。		
42	0	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者全員の口腔ケアの為に援助を実施するとともにケア実施表に記録している。また、義歯洗浄剤を使い毎晩、除菌・洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者個々の残存機能の活用とできない部分の介助、自助具の使用により自立に向けた援助を心がけ、可能な限りトイレでの排泄ができるように援助している。	排泄チェックシートの記入で、一人ひとりの排泄のパターンを把握し、羞恥心にも配慮してさりげなく声かけを行い、トイレでの排泄が出来るように支援している。また、不必要なおむつやパットの使用を控えるように心がけている。	
44	0	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数や量を毎日チェックしケア実施表に記録するとともに、散歩などの運動を促し、場合によっては主治医や訪問看護師に相談し緩下剤により便秘の予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の基本は2日に1回のペースだが、毎日入浴も提供するなど状態に応じた援助を心がけている。風呂は毎日準備しているので、希望があればいつでも入浴できる体制をとっている。	2日に1回の入浴基本であるが、毎日でも入浴ができる体制が築かれ、体調や希望により入浴やシャワーなどの対応が可能である。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけを工夫し気持ちよく楽しめるように配慮している。	
46	0	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の習慣やその時の状況に合わせて援助を提供している。季節ごとの寝具の入れ替えやシーツ交換、就寝中の巡視など、気持ちよい安眠を援助している。		
47	0	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の薬の情報は、ファイリングし職員がすぐ見ることができるようにしている。また医師の指示どおりの服薬ができるよう個々に合わせた援助を提供している。		
48	0	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体機能や本人の生活歴に着目し、調理の下ごしらえや洗濯物たたみなどの家事活動、散歩や新聞取りなどの日課活動への参加を促し、生き甲斐のある生活と気分転換を援助している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気や体調により散歩や買い物の同行などの声かけを行ない、屋外に出る機会を持てるように援助している。また、家族の協力を得て住み慣れた自宅や近隣への外出や外泊をお願いし準備などの援助を行っている。	車椅子対応車両が用意されており、気軽に近所の商店への買い物、ドライブなど一人ひとりの希望に沿った外出支援を行っている。庭や畑があり、野菜や花を見ながら散策や外気浴ができ、気分転換をしたり五感の刺激になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	0	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者が普段使うティッシュや歯みがき、保湿クリームなどの日用品などの購入は、金銭管理のできる入居者は本人の手持ち現金からの購入を援助している。</p>		
51	0	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話や手紙の取り次ぎを援助している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用部分を含め、居住空間全体の整理整頓と清潔保持に努めている。また、民芸品や季節の小物などで季節感があり安心できる生活空間づくりに努めている。</p>	<p>平屋造りの家で、明るく解放的で、なごみやすい雰囲気がある。玄関や食堂などの共有空間には季節の花が飾られ、出入りしやすい台所では利用者も気軽に活動する姿があった。廊下に椅子やテーブル、ソファなどがあり、好きな場所で思い思いにくつろぐことができ、居心地のよい空間となっている。</p>	
53	0	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有部分にテーブルとソファを設置し、他入居者との歓談やテレビ観賞がゆっくりとできるように配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての居室が完全個室になっており、自宅で使い慣れた家具の持ち込みや家族写真の掲示などで、居心地よく安心感のある生活ができるよう便宜を図っている。	危険物以外の持ち込みは自由であり、家族とも相談し一人ひとりの希望や状況に応じて仏壇、家具、タンス、椅子など馴染みのあるものが持ち込まれ、居心地のよい空間となっている。	
55	0	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、入居者が伝い歩きでも食堂やトイレ、浴室などに行けるよう壁に手すりを設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域に開かれた施設であるべきことを明文化するとともに施設の見えやすい場所に掲げ、職員への意識付けを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の散歩は、地域住民との貴重な交流の機会と認識し積極的に取り入れている。また、不測の事態で地域住民にご迷惑がかからないよう必ず職員が同行している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	施設見学や入居相談、運営推進会議などに於いて、地域住民からの相談や質問に対し、認知症専門施設として認知症の理解や援助の方法を懇切丁寧に説明するよう心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者家族の代表、民生委員、小組合長、行政代表などの幅広い分野から委員を選任し、情報交換を行ないサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営基準上の疑問点はもちろんのこと、入居者やそのご家族への援助についても市担当者に相談するなどしている。また市からの依頼にも積極的に協力するよう心がけている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全ての職員が身体拘束と排除の必要性について理解を深めることができるよう、月例の施設内研修で身体拘束をテーマにした研修を年2回計画・実施し、実践に活かすよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が高齢者虐待と排除の必要性について理解を深めることができるよう、月例の施設内研修で高齢者虐待をテーマにした研修を年2回計画・実施し、実践に活かすよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見人制度を活用している入居者も居られるため、制度の概要や外部との連携方法などについてカンファレンス等で話し合った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時の説明は、必ず書面を用意し、はっきりと分かりやすい言葉で懇切丁寧に行なうよう心がけている。特に入居料は料金表をもとに細かく説明し、月額などを提示し理解を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事務所前の目に付きやすいところにご意見箱を設置し、書面で意見などを受け付けるとともに、面会時には直接面談している。また運営推進会議に家族代表として輪番制で参加して頂き、意見を述べる機会を設け運営に活かしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月例の職員会議に於いて、管理者等と職員との意見交換を行ない運営に反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、職員個々の能力や業務への取り組み状況などの把握に努めるとともに、職員が常に向上心を持って働けるよう定期昇給や各種手当の支給を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、職員個々の能力の把握に努めるとともに、年間研修計画を策定させて計画的に介護の知識や技術などの能力向上が図られるよう努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者は、包括支援センターを中心とした地域ネットワークの重要性を理解し、研修会へ職員を積極的に参加させている。また地域のサービスの質の向上が図られるよう、事業所間の交流に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能な限り情報を収集し必要な援助を職員が共有・連携しながら提供することで、安心感のある生活の実現に努めている。また入居当初は、特に声かけや傾聴を密にし、早期の馴染みの関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を含め面談時は、常に懇切丁寧な説明と傾聴を心がけている。困りごとや不安なこと、要望は援助計画に盛り込むことなど説明して、安心感のある施設利用ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との面談の他、利用していたサービス事業所など、可能な限り多くの情報を得て、それらを基に本人や家族の現状に合った援助の提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、できない部分を援助しつつ、調理の下ごしらえや洗濯物たたみなど個々の能力に応じた仕事を入居者に依頼し、お互いに尊重し合いながら生活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居により家族の絆が途切れることが無いよう、援助計画で家族との面会や外出・外泊をインフォーマルなサービスとして必ず位置づけ、担当者会議で説明し了解を得るようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもとより、友人や地域の馴染みの人たちとの馴染みの関係が入居により途切れることが無いよう、椅子の準備やお茶の提供など面会しやすい環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格と入居者同志の人間関係の把握に努めるとともに、座席の位置など入居者同志の人間関係に十分に配慮しながら行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退居となった入居者の見舞いに行ったり、家族からの相談に乗ったりして支援の継続に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族との面談での聞き取りの他、日常生活の暮らしぶりからその人の望む暮らしの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との面談での聞き取りの他、介護サービスを利用していた場合は、本人等の同意を得て担当ケアマネやサービス事業所から情報を得るなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に職員が目配りや気配りを行ない、心身状態や身体機能の把握に努め、ケアカンファレンスで現状について集約するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント時は、本人や家族の他、介護職員や医療関係者からも情報を得てケアプランに反映させている。また、作成されたケアプランはサービス担当者会議の中で必要に応じ修正を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェックの他、食事摂取量や排泄量・回数、服薬等のケア実施状況はケア実施表に、気付いたことや特変などはケース記録に記録し、職員が入居者個々の状態を把握できるようにするとともに、介護計画の見直しの資料として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩や買い物同行などによる気分転換、日常生活自立のための工夫や福祉用具の購入、体調不良時の医療との連携など、入居者の心身の状態に合った援助を提供するように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、精米、薬取りなどの活動を通じて地域社会との関わりを持ち続けることで、入居した後も楽しみや生き甲斐のある生活がおくれるような援助を心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、必要な情報提供を行い本人や家族が決定している。相談や報告などで主治医や訪問看護事業所など医療との連携を図り、家族に相談の上送迎や付き添いの援助を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所への報告・相談の流れを管理者に一元化し、受診や看護が適切に受けられ、その後の指示や命令も適切に出せるように連絡体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報提供を行うとともに、着替えや日用品など入院生活に必要な品物の準備などの援助を行っている。また入院中は面会により回復状況などの情報収集を行うとともに、MSWと再入居の調整などを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期（看取り）について入居時に施設の方針を必ず説明するとともに、面会時やサービス担当者会議などで家族の現時点での考えを聞いている。主治医から家族への終末期の宣告時は必ず同席させて頂き、意思確認しその後の援助に活かしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を整備するとともに、マニュアルを職員が見やすい所に置き、急変や事故発生に備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施するとともに、消防署や行政から通知があった場合は随時、点検を行うなど、防火管理者が中心となり災害対策を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇をテーマにした施設内研修を通じて、入居者の人格の尊重やプライバシー確保の重要性を学ぶ機会を提供している。またマニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしてある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴などの身体機能に配慮しながら、ハッキリと大きな声で分かりやすい言葉による説明で、可能な限り入居者が自己決定できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば朝食をその日の気分に合わせて、他入居者より遅く提供するなどの便宜を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洗濯援助に必ず職員が加わることで入居者の衣類の状態を把握し、必要に応じ補修や購入のための援助を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の喫食状況の観察や摂取量の確認により嗜好の傾向を把握しメニューに活かしている。また調理の下ごしらえや配下膳など、個々の能力に応じた家事活動への参加を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔機能に応じた形態やトロミの使用、身体機能に応じた自助具の活用など、入居者個々の身体機能に応じた食事や水分を提供するとともに摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者全員の口腔ケアの為に援助を実施するとともにケア実施表に記録している。また、義歯洗浄剤を使い毎晩、除菌・洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者個々の残存機能の活用とできない部分の介助、自助具の使用により自立に向けた援助を心がけ、可能な限りトイレでの排泄ができるように援助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数や量を毎日チェックしケア実施表に記録するとともに、散歩などの運動を促し、場合によっては主治医や訪問看護師に相談し緩下剤により便秘の予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の基本は2日に1回のペースだが、毎日入浴も提供するなど状態に応じた援助を心がけている。風呂は毎日準備しているので、希望があればいつでも入浴できる体制をとっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の習慣やその時の状況に合わせて援助を提供している。季節ごとの寝具の入れ替えやシーツ交換、就寝中の巡視など、気持ちよい安眠を援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の薬の情報は、ファイリングし職員がすぐ見ることができるようにしている。また医師の指示どおりの服薬ができるよう個々に合わせた援助を提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体機能や本人の生活歴に着目し、調理の下ごしらえや洗濯物たたみなどの家事活動、散歩や新聞取りなどの日課活動への参加を促し、生き甲斐のある生活と気分転換を援助している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気や体調により散歩や買い物の同行などの声かけを行ない、屋外に出る機会を持てるように援助している。また、家族の協力を得て住み慣れた自宅や近隣への外出や外泊をお願いし準備などの援助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者が普段使うティッシュや歯みがき、保湿クリームなどの日用品などの購入は、金銭管理のできる入居者は本人の手持ち現金からの購入を援助している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話や手紙の取り次ぎを援助している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用部分を含め、居住空間全体の整理整頓と清潔保持に努めている。また、民芸品や季節の小物などで季節感があり安心できる生活空間づくりに努めている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有部分にテーブルとソファを設置し、他入居者との歓談やテレビ観賞がゆっくりとできるように配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての居室が完全個室になっており、自宅で使い慣れた家具の持ち込みや家族写真の掲示などで、居心地よく安心感のある生活ができるよう便宜を図っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、入居者が伝い歩きでも食堂やトイレ、浴室などに行けるよう壁に手すりを設置している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない